曽我物語　12冊　寄別13-17　07-001

国立国会図書館

曽我物語巻第七目録

ちくされたるみ事
こそぞどひの事
ちやうめつぐらんの事
たんぞくまうの事
母れかんだうゆるさるゝ事
ましやうぐんがる
三井でられちこうだいしのる
たの義姫どうのる
まりこがハの事
二のこやれたる命よあひしる
屋そのすぎの事

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-002
国立国会図書館

曽我物語巻第七

ちくさのたれみしまゝ

そもまゝよりひのまへのぜひぱぜひたれひとゆめのうちはしむ
ぱうじたりしむやさまだまもてうがもれありさまゝ
まゝばあるがあひごとゆめのう義世よ何うつくしけざ
むべきさまゝだせんなのたいぐまもんをはぶることを
つまをたへばむあのけらくあ同じいざやさいごれなが
めしてぶげしはおもひをなくさまんとてぷやうぶい
たりしふたれおりてうへをさしぷちくさのさうへでうを
みるまもなごりぞおしかりけるんのあしどくさも
さもぷいかでうあはれをしらさうべきしぷなくこなくさ
ま屋もしらひたりぷまゝよりそへ左さ家をみるよ

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-003
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-004　国立国会図書館

ふかなと涙ぐみ給ひ給ひ命きてはくさのゆゑは花ひら
きおちくせんよう同じくぞしやうれ人たふらかすが
ごとしとみたりぞ也いろのことゞ之ゆゑ言のよを
名げりはざりでもいろれぬうしぐさ
それ法くなるばいかでみてまし
わくらずさしければ十郎きてはいまぐさうぎ
ぶなとれを父ぬるれくさとこそよみ言ざうりまゐ
花まはんやたがふべからむとだりふまゐるまをなはまを
をのこさぬことのはいかりけり むざんぬしんざし
たゝ梅を我らかしひ言ゆ母につ四程をしらせ生
ゆべきかたうひさふらへといひ給ひ給ひ
てぞひとよらぬ所ゆゑ言ゆゑ所ゆゑ

はしらば今はいかでうゆつんじさふらぬべきまゝ上人の
子がむかんおこしておさぶらひんまゝおやさせいそ
ぎしまて抱しりせよとてよろこぶ母やうべきそまじ
りうじ法うみを結りつくさのごまでもよそへ。こな
たりも又まいらせて。国ありおんとこそぞんじさふ
らへ十郎きして。国ことにはぎしうべしさらばその
法井でよ。ぼんがかんだうをもゆるしてきんと
てたくれうへぞおこりける
こそそごひのまゝ
十郎は前にしこまり。おふきしゆくまゝ丸口ゆる事。
かうこうをいくし。御恵かうふるべきもよてはさふらは
祿たまつだいの抱繪よ。ふじのくは物の法体よ。ゆるさて

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-005　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-006
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-007
国立国会図書館

うちへはへえびひろえんよりしこまりしやうじを
あらざてくぞとあまぎがほこまてはりんぞれむ○よ
をめしがへれほこそぞ一ツたまはりくぶりだのを
まうしきはりんぞしてたそやきうるまくこ
そぞ一ツといふべきよこそもうさ○十郎はたゞいほ
とりくいでぬ菜れ小次郎はなうこうれりのなる。
二のこやの女ばうはぞかやうはいふべからばぜんじ
しとてちれうちよりもそしまはおぢ屋いくし
くぶりごまなりぞとまうとてまはりのてありし
はぞんだうしてゆくもあしらばこまはこゞむとし
さが　このまうとのばらの。えんなりまらはをわら
りんこくぐくの給ふとおぼくうり。しりもるすねの

ていみくるしぞや門のなりへいぐさふらへとぞまれなり
まぞの給ひけれぞれむ○おりひきりうる事か
まだぞのたこまうが歯いりくさふらぬぞまはいた
がゆるしをきうるぞぞんなおやとていやしこさ
ふらぬぞやうまはさふらぬまじとくもやうま
あかづらゆく男七代まで歯けうもうぞだいめんな
りひをよらむとぞいけれけるぞ郎はゆるさるまま
はかなはばしてぎんくのられ世までとぬくくん
だうせらまくぜんごをうしなひおりひはばうし
たそくぞぬうりけるぞ屋くありてごとあにありて
ーけるはぞやうの男まぬりなりくぶうぞ○くーア
あぐべきまぞまではをそまはまてさふらへぞ。女

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-008　国立国会図書館

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-009
国立国会図書館

なりしこそ。なぐさにおくみまゝバ。なこ風たりくしてくを
らいでんおびくしこそその中にぞらりんかめをがいせん
とも。母こまをこそ。ぞらめたるせ。なんぢが父れめい日
ぞ。ぞらもんきてぞさまちならだ。ぞやりんをこそ。
くなうせめといひくぞ。おさへてころさんとにがめ。涙を
ながして。我八十年。恨かふさちこく大じ大ひこ。ひつ
しやうおんらくこくこそなれけり。たくこまをぞなん
ぢ。かめれとだきてしまりや。しらぞせこそふがめはそ
こぬりさものまて。まんだうれざいしやうを。なつくし。
如仏もべきに。今つりぎにしたがひ。又魚ごうを。なかへを
づきるれかなしさよとへ。孫がりくいそのかめをたなして。
こづりしをころしさふらへといふ。涙にかめ乃。氣にかえ

つまかりしべきまやといひもいてぞかめを。あとよなげ入を
なりちつりぎをぬきく。母はむかふ時。天神地神もこ
まことをもて。給へだ。大地さけまてなしくにしづむ。母を
ころさんとしたる子の氣をかなしこそ。ぞ。母
りしまむかひくだらりんがりとぐつまをとり給へバ。ぞれ
たちかしらがこゝりぬけて。母のまにとまりその男はむ
かんにしづこゝりぞまたかめをたなせしくりきまつ
て。仏果をえ。なけきやうのふりんがんにだらりんしんと
とりまてりかやうれるをぶるもおやはあわれむなしひに
てさふらぬ物を。母きてぞやこのそまをたてがえるを
きてぞかめをたなりてこそ。じやうぬつはしき給へなんぢ
何とくまらはがどしへをきりざりぞ。ぞろきるをも

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-010　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-011
国立国会図書館

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-012
国立国会図書館

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-013
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-014
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-015　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-016
国立国会図書館

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-017
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-018
国立国会図書館

ぞだぐ法門しんでぞおくりける
　たくれんだうゆるされし事
屋くありて十郎ざしはとうらぬゆるしあるぞとれむ
孫こなるへまいりさふらへ五郎は志がるて種に悪びかる。
志がしはおこそかるゝりけれ志がらくまたく時むる。
種おりひかをしのぐひおけれ十郎もうゆしく
あはれまてうらかさぶきぬるりさやうだいとりに掛と
もいはぬぐさめくとなきぬるり母はなさ母をして。
げまやあやこの中がどあはれ明るるなしぞしあひ
もひんまして人数なるぬまうはかことだ下のとありして
なれ志がるむざんさよかこまれるをぶるもおやはか
なしむなるひぞりしいかでかふくうへきだにうれと

しふゆへなりといひもまうぞ母もなみこをなりしけり。
そのてちぎやうだいのりのたりしこまりぬるうをたて
ゆくくとまがりぬしのたちしぬんちぶづうを
なろうにやしひけん十郎がある事をうつるよ五郎をと
いふ時はんぬ屋をしぬしとさけばんりとなくてぶらを
もさてみるぞそよぶ三とせがれどうらそりくうらめ
しくくやしくしはまてつくくとみるに見ても思ふ
りんたるのさぐは志がしのざしきあいくうまてぢくの
しひあらまぶむりしまを種ぞ志はまたりざてもみ郎は
たこ○まてもさてつくむ十郎はいるふして経みをれ
しりけるぞやぶ[illegible]ぬうけ給りけくぬまやせてはける
がくいぞふるあちうるなしぬ人見んましてちみじかく

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-019
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-020
国立国会図書館

まだらかしぎりしまふてぞへたりけるがくてさけもと
ぎけれだ十郎うしこまつくこんどみうりは海かりな。
こそやうごいが中よいりなかうこそやうをとしけるまつりぞ。
りびの田をんまもあづかりさふらひぞとだの一年とも
んやもくさぐさぐちくしやうつまやうよそ明へそまつら
だやとぞんじさふらぬ。母きてなとゆかんこのさびの
田かりの田ともんまとなくおかゆるぞやよれなとまも
さふらひぞしひとでまり給へかしぎりながらいしやうの
れがこもあまいぞこそでおしむひてうりぞまくねう
だうさらやの給へいぞろきからなやまつるのまる所と
めひうるこそて万とりあし。五郎まもとらせめるぞ。
うしなりびしてをしへ十郎はつまれこ種をかりて是

さびぞまいはそがなのみしゆまうるこ種えて夏たみとも
はぞまいのまたれとらせたりとしはまんもたづかし。
こそでをしてくめてをくぜしがまへてくくうくうり行
なとまきけまいぞ女給りゆとて孫りぬきれきそんじ
うるれぬぎ人ぷんぐるしくさふらへたんよさびさふへ
とてぞをされけるこそでのかしきまはあら孫ただ
がひのかくこのかへごろも種をつかしくうらをきけり。
さてもこそやうだいはざしきをさけれだ母みをとりの
給ひけるはすぎましころ十郎こ種をかりこさびとも
こせびいりなあそびりのまもとらせめるよとしひしな。
さはなくしておとくの五郎なきせけるぞ又ちりきころ
大らちひてまをしてくとらせしをこまも二どしも

みせざりしがだう三郎よきせこりと思へばこまをとる
おとくまきせけるぞや。面ことにきやうだいをば。[illegible]のまゑ
山のわくまをもりつべりけるものをやぢくまいけるか
くし。面をとれば一人ある母まいぬけうせしれひんなれば
志うしきまもうとくなりおるかなれの世になしもの。
こまやれ人かわれもべきとてなみごをひらくとなる
し給ひれだぞのざにまし女がうこうぞ。これにそぞ
とぞぬしけるぞてきふうごいの人とはぎかかこ面
まかつりこそぞと中まをきぞましくもまいさん
しつるものなだじ面ゆるされぞしてはぬ志やう
ごうをぬりたるかふまじいきくこてびかへ[illegible]
[illegible]こ[illegible]かへせしれつるこそとろかなま。

何しまかへせとはいひ[illegible]なしらぬ身れかなしさこの
とごうくらいし給りんなる面のやうにおがこうりと
てぞらかうぶきてぞなきぬるうぎまこう世にまで
心のまこれおやけうやうともいこさばこまがでまでお
もひぬるまもまぬべし。此三年こそぬけうの身まで
はさふくぞまさへうひしくさひこそまつりしありは。
あるとれは物ごしまも見こそまつりさくなぐさみ
まだじ面ゆるしをうふり。百ごふもなくして。
いぞんなまこそかなしけまぞ志に給つるちをおもひ。
けうなうせんとまれば。いま給へ[illegible]に物をしらせ
こそまつるぞまだまもしらかぞおやまさんなれも
のはなしのちの世までつきせぬものはこぞ志せれよ

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-022
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-023　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-024
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-025
国立国会図書館

丹ハ女がうとちひきつまぴろ三んにとちかみをとり。
さ面くまがの結ひなるぷ。えてものきやうむらだれ
のひきあはせむまれのりすがぐぷぐかのとりやうぷ十郎ハ
又まふくまたぎるとやうハたるのおとりや。五郎ハ逃げ
のさしきやのあひ屋うぷちのりち屋うにいたるまぐく。
おぐやうなるていぢくまハ女ふくまたぷまたもたるの
おとりと山寺にてそぐちくれ。又くろくげをしく
みゆるぷ十郎ハ室にすまうしかども。又しろくぢんぢやうと。
わがまとらふゆへにやいづまをこさらげなるものたるかいり
なる大将ぐんと云たぷづりしかじおりま世にあらばされ
まるおとうべきぷ同じくいかれをちくのろたにみるならば。
いりはうましくまなんとぷめぐくとてそなれ結ふ女

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-027
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-028
国立国会図書館

やなりしかまつべきるをまはまぬ。とりゆぎをかをうつま
ふくとつけくりてあしかりぬい将軍れ子なれば。さい
あいより。父とうしまくられかるを屋まうしばらひ。ぐされ
とうべきるをぞしひかるぐうぬんやのどしぐうるま
ふくさや七さいまぞぬにかるぬる時父ぢうさいの力
をさし。ほのつきさうゆきまぢんづうのかぶし屋を
とりそへむまやまあり。父のりてしにかるぐんしやうま
うまむかりくいたくぬんぢむまの中れしやうぐんや。
しかりは父のうちれまんぎしぬりしぢくのとうまかる
のべ。ぬまをぐそくせうと云はるきれる源をおがし
てぴさをありぐうしやうまいぞへかりぐうつまうくたき
ふうらびくうのまうあのりぐるにまりせくゆく行は。

ふつまれくづにあくて七月七日ぞ。ゑかる。八日のやうんまを
よびておかるふあひまけぐ物あかくあつまりぬるか。
も中まふしぐけ一夜あまりなるとうれあがんまる日
月をあらべうやうまてぐまを井のしたをふりて
ふしかれぐさもなましぬをしあふべきにぐう将軍れ
子なかまぐさまてそ父のかたれよとやうてさしつが
ひぐうひいくてあるあやまくぐうの左の眼まいて
てうりぬうはとみられぐうつまうくむまうりとん
ぐありぐしれかれをぬきとうをきりんとうけまぐ。
とうまてはあくしてぐしへうの右の苦むしうまてぞ
ゑかるぐやうのんぎしまてぐあにかれをうつぐ乃よの
せれちくとゑくぐうつまうくがいけりやえとぞやつて

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-029　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-030　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-031　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-032
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-033　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-034　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-035　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-036　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-037
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-038　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-039
国立国会図書館

わたうより御りくぞたのむまりこがれ
あやのかたれりあふせをありへば
かやうよしひつら孫と紙りところはぬるごれあんじ也
かさ海でしぬるとの志也くとうらすぎゆさのたう
げよこ海をひかへゆんづしつきくまはりはへむまれく
三が図まてたつりとはてとりなりぎましむまりと
ころはいづのらぬうぶろところはぎがみれらふさいご取そ
まりがのらふぶじのまそれて霧ときもなんぬしぎ
さよ。命きてぞのさいごどころがたるまてはぞ。ん
え給へといさむまばおほせまやをうぶとの給へども。
さひがかりさとのあぐりやあしりりはんぞがふり黒の
りさをたりぐとなりぶむまばたじらりのしかりいづく

をうしともしら孫をばふりまとしみとうりはどし
そがまてやはりんだう三郎こまをとりしそばふりは
うがまくらびぞまよりみあしのらろきりまり。
くもれかりてはこそはぞがまてくやまけまばぬ
御義るまれしひいぶさまて為十郎
そがたやしぞすまかけそ事さがり
いぬをうぎりのみちをありへば
をうちなりがめあしぶらしけまばぞ命はありさ海をと
てぴんよぞうしんしてはだりくしさるなりじい
さめたやとしひればいりぶしよ如くぞのこそそ大
いそこいそぞがふりさとをもなりめ給へどもしまは
おいくはぞふましこそいそがりしくくとそこ海む

さのをかけいぐし。二ちやうがりかけとりぬ。十郎を
うさめくありひながら。こゆかけいぐしあひつきたり。
五郎ひささがりぐどれたるハぷんがいりしやうな
うくはりのぐまかハさいごのあどりあしらそうなき。
あれまうだう三郎がんをとはちぢくへりしがまて
とぐそがへ色しかぐしりしけるかいてちぐしやや
をうぶしそんぎりのあらハぱんこがこてまてハ奇
とよこぐしとまてハしばしいぐしもとそぬ事
なんどあざきうまんも口わしぷりがりとりあがしめ
しはとりたれだことりとやとられたんぞのくちハ奇
をもこうまぐぐうとめともせぐうちけるなどにたんぐ
まにしそつきにけま

曽我物語 12冊 寄別13-17 07-041
国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-042　国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-043
国立国会図書館

ぶらぬるよせうなしけき
やそてれすぎのるゆ
そてもまろづきいのらどもぢそくハなれじまか
がらぬさりぬべきびんぎもこそなしめ一これも以う
ぎやそくこ海をたやめてうつなどはやこそのまれ
まぎつきりけ殺このまれ中ハかれハゆりれ
のまぎといひけるを一と物れ志うあそのなはごん
のうこれてごらうれげきしんあまれくとうら
しさがへてちやうぎるゆ四ヶ年なりぬくさまる
ゆ年よどなりぬびどれそりそのこれのよハ
ひ七十二さいなりおまろさへてんがをなやましそ
まつんとて國をもよほしきこゝありけれバ六そん

まうれ以これぞのうつくのためよぞりんとうれ候く
ものをめさ候のなりしに。このまぎれりれよありぬ
ていのりけるハ。れ志うれそぶりぶんのうとをうらし
ぬがんなくこやこゝゆへりのがり居をうだいよ
あぐべく。一のやうけとり給へそれをのくゐけるに
一人をぬそんせばさそつしまくぶりぶりせんまるに。
なんなくうらうつく。ぶりのがりぬぞのこれよりゆ
してやこそのすぎれ中ゆりぶ門いでめでこ義扶
こゝぬ。ぎやうげこびんにあるをなれを。この本りか
いやをまいらせぬハなし。いりんや我しゆりふゆまて
ゆくものぞうし。いそぐうハやをまいらせぶんとく。
十郎一のえぶこりとぐむ。五郎二のえぶこまぞいくさく

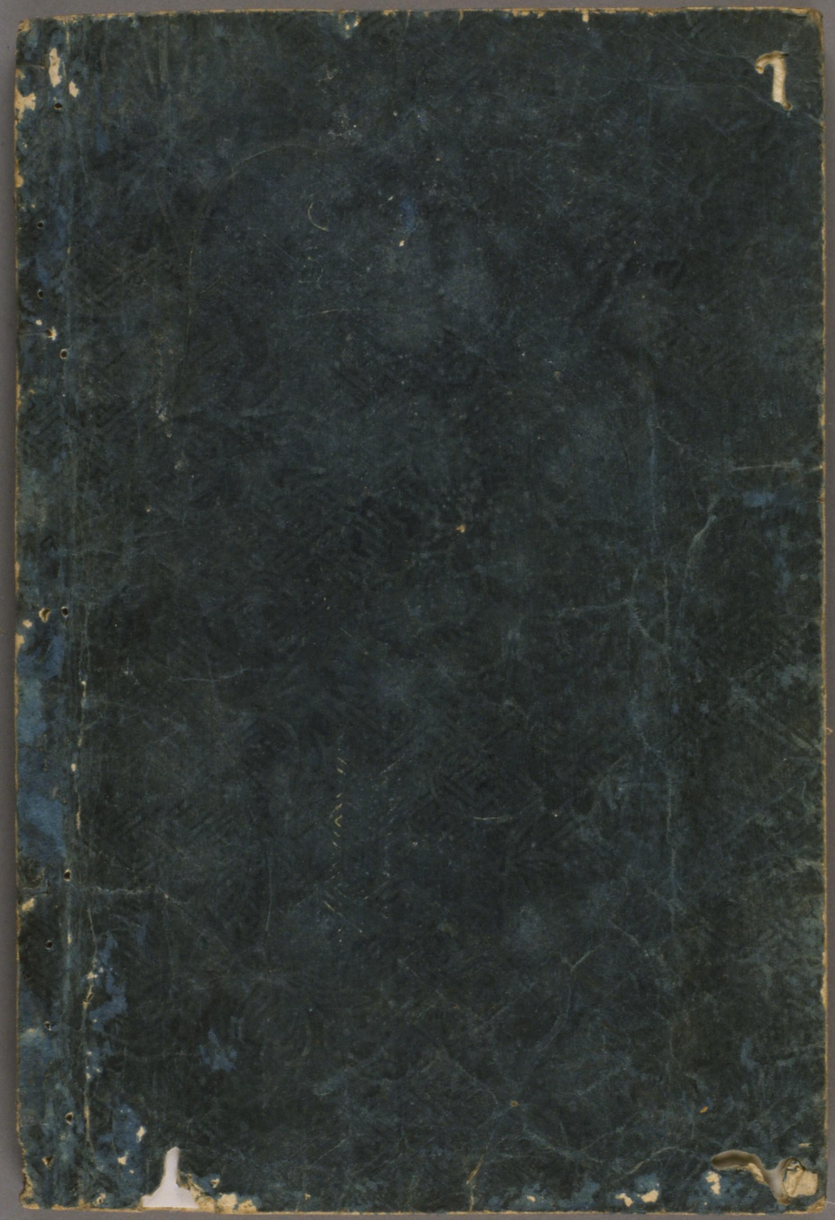
曽我物語 12冊 寄別13-17 07-044 国立国会図書館

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-045　国立国会図書館

か
12
60

曽我物語　12冊　寄別13-17　07-046

国立国会図書館



曽我物語　12冊　寄別13-17　07-047
国立国会図書館